

平成20年11月7日

各位

東京都千代田区二番町5番地5
 会社名 21LADY株式会社
 代表者名 代表取締役社長 藤井道子
 (コード番号:3346 名証セントレックス)
 情報取扱責任者:経営管理担当取締役:北川善裕

平成21年3月期第2四半期及び通期業績予想(連結・個別)修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年8月8日に公表いたしました平成21年3月期第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)及び平成21年3月期通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想

【連結】

(1) 平成21年3月期第2四半期連結累計期間業績予想数値の修正

(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,166	△20	△15	△21
今回修正予想(B)	1,872	△155	△147	△173
増減額(B-A)	△294	△135	△132	△152
増減率(%)	△13.5	-	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	1,771	△368	△374	△429

(単位:百万円、%)

【個別】

(2) 平成21年3月期第2四半期累計期間業績予想数値の修正

(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	70	△24	△21	△22
今回修正予想(B)	80	△18	△10	△19
増減額(B-A)	10	6	11	3
増減率(%)	14.3	-	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	95	△8	△4	△372

(単位:百万円、%)

2. 修正の理由

(1) 連結業績

今回の業績修正におきましては、当社グループの主力であります洋菓子のヒロタは前年比大幅に業績を改善しておりましたが、夏後半の天候不順及び米国サブプライムローン問題に端を発する景気後退による9月からの消費マインドの大幅な落ち込みの影響を受け、売上高、営業損失、経常損失、当期純損失ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

(2) 個別業績

個別業績修正におきましては、収益構造の見直し、コスト削減等による利益率の向上に努めました結果、売上高、営業損失、経常損失、当期純損失ともに前回予想を上回る見込みとなりました。

3. 業績予想

【連結】

(1) 平成21年3月期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	4,393	8	15	4
今回修正予想(B)	3,685	△209	△199	△231
増減額(B-A)	△708	△217	△214	△235
増減率(%)	△16.1	-	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	3,777	△608	△627	△742

(単位:百万円、%)

【個別】

(2) 平成21年3月期業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	148	△38	△38	△39
今回修正予想(B)	139	△61	△52	△62
増減額(B-A)	△9	△23	△14	△23
増減率(%)	△6.0	-	-	-
(ご参考)前期実績(平成20年3月期)	190	△21	△10	△702

(単位:百万円、%)

4. 修正の理由

(1) 連結業績

今回の業績修正におきましては、下半期におきましても消費マインドの回復が厳しい中で、抜本的な経営改革により収益の均衡を目指しておりますが、当社グループ全体の通期では、売上高、営業損失、経常損失、当期純損失ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

(2) 個別業績

個別業績修正におきましては、収益構造の見直し、コスト削減等による利益率の向上に努めておりますが、当社グループの主力事業でありますヒロタ事業の業績回復遅れが影響し、売上高、営業損失、経常損失、当期純損失ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

上記に記載した予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により、上記予想数値と異なる可能性があります。

本件に関するお問い合わせ先

21LADY株式会社 経営企画担当(倉田、薬師寺) 03-3556-2121

以 上